

ミネソタ大学教育学部との学部間交流協定調印について

山本 謙 国際関係学部

教育学部 伊東 亮三

平成元年（1989年）3月16日、ミネソタ大学教育学部長 William E. Gardner を迎えて、わが教育学部とミネソタ大学教育学部との間で、学部間交流協定の調印式を行った。教育学部の学部長は、この3月末日をもって定年退官された山本教授であった。最初に学部間協定の主要部分を参考のために紹介しよう。



日本国広島大学教育学部とアメリカ合衆国ミネソタ大学教育学部との間における国際交流計画に関する協定書

日本国広島大学教育学部とアメリカ合衆国ミネソタ大学教育学部は、教官、研究者及び学生の交流を通じ、研究・教育の協力促進並びに国際的視野の向上を目指すことを目的として、国際交流協定を締結する。

（国際交流計画の内容）

第1条 両学部は、次の国際交流計画を推進する。

- (1) 教官及び研究者の交流
- (2) 学生の交流

- (3) 共同研究、合同会議・セミナーの実施
 - (4) 研究成果、学術刊行物、その他の学術情報の交換
 - (5) その他両学部が適当と認める教育・学術的交流
- （国際交流計画への援助及び協力）

第3条 両学部は、国際交流計画を実現するために必要な資金その他の援助を申請する場合は、互いに便宜を図るものとする。

2 受入れ学部は、住居の確保、授業の聴講、研究・調査のための関係者の紹介及び大学施設の使用等に関し、経費の支出を伴わない範囲で、便宜を図るものとする。

ミネソタ大学は1851年の創立で、現在18学部よりなる合衆国有数の伝統ある総合大学であるが、教育学部は1905年の創立、教育学・心理学・教科教育学を中心に、7大講座、9研究施設からなる。

このミネソタ大教育学部の現グローバル教育センター長 John Cogan 教授が、1982～3年にわが教育学部社会科教育学の永井滋郎教授のもとに研究にこられ、教育学部の日本における位置や特色を理解して帰国され、その後、当学部中山修一助教授が1年間ミネソタ大に滞在されるという縁から、両学部の友好関係が生まれた。

一昨年12月2日、Gardner 学部長と Cogan 教授が来学、交流協定締結を提案された。しかし、日米貿易まさつ交渉と同じで、学部内の同意を得るまで1年間の時間が必要であった。また協定書の条文については国際交流委員会や国際主幹から多くの貴重な意見をいただいたことに感謝の意を表したい。